

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上 100～200mで推移した。山頂火口からの噴煙量は 2009 年 4 月以降大きな変化はなく、やや多い状態が続いている。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、2008 年 7 月初め頃からの深部へのマグマ貫入を示す伸びの傾向は、2009 年 7 月頃から鈍化し、最近はほぼ停滞している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね 2 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上 50～100mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

29日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,600～2,000トン(前回2009年12月17日、一日あたり1,100～1,600トン)と依然として多い状態が続いている。

29日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口内の噴気や地形の状況に大きな変化はなく、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺で引き続き高温領域が認められた。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、現在はほぼ停滞している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

3日に海底噴火が発生した。第三管区海上保安本部によると、福徳岡ノ場の海面から灰色の噴煙が上がっているのが確認され、同海域付近に黄褐色の変色水と浮遊物が確認された。

福徳岡ノ場ではこれまでもしばしば変色水や浮遊物が観測されており、2005 年 7 月 2 日から 3 日にかけても海底噴火が発生している。

福徳岡ノ場では引き続き海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が23回発生し、大きな噴石¹⁾が最大で4合目（昭和火口から800～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

4日に行なった現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,200トン（前回1月26日、一日あたり2,300トン）と増減を繰り返しながら多い状態が続いている。

火山性地震は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されている。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、大きな噴石及び火砕流に対する警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

すわの

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

あづま

吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

29日04時56分及び05時04分に継続時間がそれぞれ2分34秒、1分09秒の火山性微動を観測した（火山性微動の発生は2004年11月23日以来）。火山性微動の発生に際し、空振計や山麓のGPSによる地殻変動観測では特段の変化は認められなかった。また、同日福島県警察本部が上空から撮影した画像では、新たな噴気や、地熱域の変化による融雪域の拡大等は確認されず、表面現象に異常は認められなかった。

4日に福島県警察本部が上空から撮影した画像では、29日と比べて噴気の状態に大きな変化は認められなかった。

火山性地震は少ない状態で推移した。

吾妻山では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられないが、火口内では噴気、火山ガスの噴出等がみられるため、火口内では警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4（避難準備）		入山危険
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）	噴火予報	平常
レベル1（平常）		

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。